幼稚園教諭必修 選択(卒業 / 保育士) 卒業必修 保育士必修 授業科目名:ふるさと学 単位数:2単位 担当教員名:布施由起 英語表記:Hometown Study (半期) 講義 ナンバリング:1010 担当形態:単独 科 目/系 列 /教養科目

施行規則に定める科目区分

または事項等/教科目

/外国語、体育以外の科目

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1. 郷土(地域)に関心を持ち、郷土を知る方法を身につけることができる。
- 2. 郷土を資料などで調べ、理解する態度を身につけることができる。
- 3. 郷土の識者に話を積極的に聴くなど地域の教育力を借りる態度を身につけることができる。
- 4. 授業の体験を通して、郷土の教育資源を保育・教育に活かす術を身につけることができる。

【授業の概要】

"Think global, act local" や "Think globally act locally" の標語をよく目にする。日 本を築いた明治の偉人はまさにこれを実行した人々だと考えられる。皆さんが子どもたちに保 育を通して人間教育をする場合に、地域の人々や歴史・行事などの知識と理解は強い味方にな ると言える。

授業では郷土を見て、聴いて、知って、考え、伝えることを通して、身近な郷土や人々を愛 し尊敬することをとおして地域の教育資源を教育・保育に活かすことができるようにする。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	0
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	0
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【授業計画】

第1回:オリエンテーション

第2回:故郷を学ぶことの必要性と意義(埼玉の偉人紹介含む)

第3回:埼玉を知ろう(埼玉県の過去と現在と未来)

第4回:羽生を知ろう(羽生市の歴史と文化)

第5回:羽生を知ろう(羽生市の未来と地域の活用)

第6回:熊谷を知ろう (熊谷市の歴史と文化)

第7回:熊谷を知ろう (熊谷市の未来と地域の活用)

第8回: 行田を知ろう(行田市の歴史と文化)

第9回: 行田を知ろう (行田市の未来と地域の活用)

第10回:加須を知ろう(加須市の歴史と文化)

第11回:加須を知ろう(加須市の未来と地域の活用)

第12回:グループ分け、発表準備) 第13回:グループ分け、発表準備

【授業時間外の学習】

(事前事後学習は毎回90分程 度)

- ・この授業では、外部から講 師を招いて行うので、事前学 習は必須となる。
- ・次週の講演予定の地域・分 野についての調べ、A4用紙 (PCで作成) で提出をする こと。
- ・施設見学や現地での講義で は、必ずメモを取り、学習し たことをまとめること。
- ・見学当日は、メモ帳・カメ ラ等を持参して記録するとと もに、事前に質問事項を用意 しておくこと。
- ・これらをもとにパワーポイ

第14回:グループごとのプレゼンテーション

第15回:グループごとのプレゼンテーション

ントでプレゼン資料を作成する。

定期試験:なし

【授業の方法】

地域の方々を講師として招いての講座や施設見学などの活動を中心に行う。各フィールドにおいてフィードバックテストを行う。相手の都合により講義日が変更となったり、連続講義(学生と相談の上)とする場合もある。

【テキスト】

『地域学の可能性』 彩の国さいたまひとづくり広域連合

【参考書・参考資料等】

授業内にて紹介する。

【学生に対する評価】

レポート課題 (50%)、授業参画度 (30%)、プレゼンテーション (20%)総合的に評価する。目標の達成度評価基準はルーブリックで示す。

【履修上の注意】

この授業は自分の目で見て、耳で聴いて、行動して、体験的に学ぶことが中心となるので、事前に学生と相談しながら予定を決め、場合によっては連続講義となる。そのため、授業予定が変更となる場合もあり、交通費や見学料・材料費などの自己負担分が発生する場合もある。

実務経験の有無:無

実務経験:

【実務経験を生かした教育内容】